

恵美須(エビス)マークのUボルトメーカー 公共インフラ向けのUボルトを開発

事業内容

Uボルトを主に金属加工を手掛ける 即納・品質面で高い評価

1966年(昭和41年)設立の金属加工メーカーであり、主力製品のUボルトは業界内で「恵美須(エビス)印」で広く知られている。Uボルトとはその名の通り“U”字形状のボルトで、主に建物の空調配管やガス管などの結束金物として利用され、基礎建築現場では鉄筋の2本止め、船舶向けの配管固定や産業機械向けまで幅広く利用されている。

同社は国内でも数少ないUボルトメーカーとして知られ、品揃えと在庫は目を見張る充実ぶりである。およそ1,200種類を取り扱い、材質は鉄、ステンレスなど、用途に合わせた対応が可能だ。本社倉庫には在庫を豊富に揃え、即納体制を整えており、鉚螺(びょうら)、管材商社などをはじめとしたさまざまな得意先からの信頼も厚い。

品質面では、大阪府泉南郡熊取町にある自社工場で一貫した製造を行っており、自社独自基準によって細やかな品質管理を実現している。その結果、長年にわたって品質面での信頼を得ており、Uボルトメーカーとして確固たる地位を築いている。

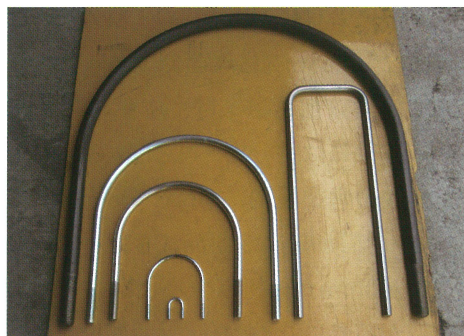
補助事業

一般品よりも品質面をさらに向上させた 強化型Uボルト製品の試作開発

全国で道路や建物など公共インフラの老朽化が進んでおり、地震に備えて老朽化したUボルトの取替えも必要となっている。また、2020年の東京オリンピックに向けて建物の建替えが進むと想定され、品質の高いUボルトの需要が増えると考えられる。特に関東方面からの引合い(エンドユーザー)は漸増すると見込まれ、伸びしろもある。

この状況のなか、Uボルトは海外からの廉価製品に価格面で優位に立たれ、国産製品は苦戦を強いられている。材質に不安のある廉価な海外製品が流通している現状を打破すべく、同社では“高品質”路線に舵を切り、今回の補助事業を利用して強度面で他を圧倒する耐震強化型Uボルトの試作開発に着手。具体的には、保有している機械設備に改良を加えることで、強化Uボルトの試作開発を進めた。

この開発によって技術力を対外的に示すのはもちろん、ユーザーを増やすことで、Uボルトメーカーとしての地位をより一層高めたい意向だ。



成果

強度の高いUボルトを製品化 販売面ではアプローチ方法を模索

Uボルト強度を上げるために、加工法を変えることによって、分子が凝縮、硬化するという材料の特性を利用した。具体的には、ネジ部下径を絞り加工すると素材分子が圧縮されて表面硬化が生じる。その硬化部分に転造ネジ加工を施すことで、既存のものよりも強度が高いUボルトの製作に成功した。

開発過程では、同社にノウハウの蓄積があまりない加工工程もあり、それに関しては時間を要したが、概ね当初の想定通りに開発を進めることができた。技術課長の籠谷和彦氏は「強度面で誇れるUボルトが製品化できた」と自信を見せる。

販売も徐々に進んでいる。品質面を重視する得意先からの評価はまずまずであり、製品ラインナップを増やすことができた。また、技術力を対外的に示す材料になっており、他の製品への引合いにつながる可能性もある。

ただ、安価な製品(Uボルト)を購入している業者の「割高なUボルト」という印象は拭えておらず、今後は品質面を丁寧に説明して理解を得ることが重要だという。

まずは、品質面での要求が厳しいプラント業界への販路拡大などを考えているが、細かなアプローチ方法は模索中だ。

今後の展開

当補助事業で確立した高品質な製造技術を基に 「立体曲げ」など、さまざまな製品を模索していく

今後の見通しとしては、東京オリンピックに向けた建替え需要の高まりや公共インフラ工事の増加を想定し、商社経由で品質面の魅力を積極的にアピールし、受注につなげていく意向だ。

「『海外製品より国産のUボルトの方が、やはり良い』と言って頂ける企業を目指します。納品後もしっかりと責任を負える企業であり続け、ここまで築いてきた恵美須(エビス)印のブランドを保持していきます」と、代表取締役社長の須藤克己氏は語る。

また、ブランドを守ることもさることながら、多様化するニーズにも応えることで、「期待を超えるメーカー」となることも同時に目指す。具体的には、2次元にボルトを曲げることでできる技術を活かし、立体曲げ(3次元)のボルトの試作開発も進めており、新たなユーザーの獲得に意欲を見せる。

次代を見越して従業員の若返りを進めている同社では、生産に携わる社員の多能工化も進めている。社員にさまざまなスキルを身に付けてもらい、新たなアイデアも引き出していきたいと考えている。既存の事業分野に捉われず、将来的には新たな発想による事業領域の拡大を視野に入れている。

未知の問題・課題をクリアし 想定通りの新製品を開発

常務取締役 須藤 大輔

この度は、本補助事業のおかげで無事に新製品「強化型Uボルト」の開発に成功することができました。

当初の計画とは異なり、開発過程においては未知の問題点や課題が数多く発生し、その都度、解決するために多大な労苦を重ねました。試行錯誤をしながらも、しかし、諦めずに問題や課題を解消していくことで、想定どおりの新製品を開発できたと思っています。

今後は、新製品の販路開拓を進め、安全で安心な製品をできるだけ多く活用していただくことで、社会に貢献できるよう社員一同、邁進してゆく所存です。

株式会社 須藤製作所

代表取締役社長 須藤 克己
大阪市西区九条南2-12-9
TEL：06-6581-2951
〈資本金〉32,000千円
〈従業員〉50人
<http://www.sudou.co.jp/>

